Wai-gaya salon's tracks

第1回／佐倉 一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長　樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長
第2回／久米 えみさん ながのクラッセ会長　樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー
第3回／鷲沢 幸一さん アスレながの事務局長　室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事
第4回／清水 隆史さん フォトグラファーほか　常盤 昭二さん CMディレクター
第5回／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん　アーユルヴェーダ・健康セラピスト
第6回／竜野 泰一さん　株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]
第7回／木田 勇さん　信濃グランセローズ監督
第8回／荻原 健司さん　参議院議員・五輪金メダリスト
第9回／松島 憲一さん　信州大学大学院農学研究科 准教授
第10回／松岡 保正さん　国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授
第11回／浜 このみさん　クッキング・コーディネーター
第12回／角本 浩二さん　バランスアドバイザー　長野県健康管理士会会長
第13回／針谷 友久さん　東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)
第14回／水野 守也さん　長野市総務部次長 兼庶務課長
第15回／バドゥ・ビエイラ監督、薩川了洋コーチ、貞富信宏キャプテン
第16回／町田 良夫さん　社団法人長野市農業公社 常務理事
第17回／中山 修さん　中山法律事務所 弁護士
第18回／塩澤 研一さん　(財)いのちの森文化財団副理事長 株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役
第19回／小出 陽子さん　(同)ふきっ子のお八起 代表／信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー
第20回／宮城 恵美子さん　(有)宮城商店専務取締役／木の花屋
第21回／志村 雅由さん　NPO法人 飯綱高原よっこらしょ 代表理事
第22回／薩川 了洋さん　AC長野パルセイロ新監督
第23回／石沢 一男さん　(有)田舎工房 代表取締役
第24回／新谷 志保美さん　バンクーバーオリンピック代表 竹村製作所 勤務
第25回／越 和宏さん　スケルトン競技3大会オリンピック日本代表 システックス所属
第26回／鈴木 政一さん　長野パルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長
第27回／千村 尚司さん　千村ブレイン代表・ソムリエ
第28回／川崎 史郎さん　フリーライター・市民記者ネット代表
第29回／安藤 長一さん　篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長野県隊長(第二次派遣隊)
第30回／マブソン 青眼さん　俳人・比較文学者
第31回／井上 裕子さん　信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員
第32回／田幸 淳男さん　信越放送取締役相談役
第33回／飯室 織絵さん　観光客向けゲストハウス「1166バックパッカーズ」運営
第34回／相原 哲さん　ながの町神輿連合会武睦会 会頭
第35回／小林 亨さん　日本オリンピック委員会(JOC)勤務
第36回／薩川 了洋さん　AC長野パルセイロ監督
第37回／小宮山 義光さん　日本野鳥の会長野支部会員
第38回／塩澤 研一さん　農業生産法人株式会社水輪ナチュラルファーム代表取締役/(財)いのちの森文化財団 副代表理事
第39回／侭田 達男さん　NTT東日本 長野支店長
第40回／山田 隆さん　しなの鉄道株式会社 専務取締役
第41回／藤岡 牧夫さん　イラストレーター・絵本作家
第42回／矢澤 秀成さん　園芸研究家/ながの花と緑そして人を育てる学校校長
第43回／近藤 京子さん　カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長
第44回 ／栗田 貞多男さん　写真家
第45回／鴨志田 明弘さん　野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長
第46回／天野 良彦さん　信州大学工学部物質工学科教授
第47回／美濃部 直彦さん　AC長野パルセイロ監督
第48回／丸田 勉さん　脚本・演出家 森の家 林りん館館長
第49回／浅野 邦子さん　株式会社箔一 代表取締役会長
第50回／平沢 幸子さん　長野朝日放送 アナウンサー
第51回／本田 美登里さん　AC長野パルセイロ・レディース監督
第52回／小田 興之彦さん　株式会社加賀屋 代表取締役社長
第53回／廣井 紀文さん　株式会社ディーテス 代表取締役社長
第54回／羽生田 豪太さん　株式会社羽生田鉄工所 代表取締役
第55回／中島 麻希さん　1級フードアナリスト
第56回／齋藤 安彦さん　宮司
第57回／屋敷 陽太郎さん　NHKチーフプロデューサー
第58回／平山 優さん　歴史研究家
第59回／西村 知子さん　寺町商家運営アドバイザー
第60回／広瀬 毅さん　株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表
第61回／浅野 哲也さん　AC長野パルセイロ監督
第62回／中島 恵理さん　長野県副知事
第63回／服部 秀人さん　信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー
第64回／平尾　勇さん　長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー(前松本市商工観光部長)
第65回／野池 裕子さん　ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表・講師
第66回／愛甲 宏明さん　炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長
第67回／坂橋 克明さん　フリーパーソナリティー
第68回／宮下 秀樹さん　株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高専客員教授
第69回／金田一 真澄さん　公立大学法人 長野県立大学 学長
第70回／笹本 正治さん　長野県立歴史館 館長
第71回／山本 克也さん　長野市芸術館 総支配人
第72回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極'おーじ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
第73回／山浦 直人さん　土木・環境しなの技術支援センター理事、長野県立歴史館客員学芸員
第74回／松本 克幸さん　協栄電気興業株式会社 取締役副会長
第75回／大室 悦賀さん　長野県立大学グローバルマネジメント学部教授/ソーシャル・イノベーション創出センター長
第76回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極'おーじ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
第77回／水間 源さん　東御市役所 地域おこし協力隊
第78回／小澤 吉則さん　一般財団法人 長野経済研究所 理事・調査部長
第79回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極'おーじ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
第80回／森田 舞さん　ゆめサポママ@ながの 共同代表
第81回／新井 精一さん　千広建設株式会社代表取締役
第82回／竹内 伊吉さん　大成産業株式会社代表取締役社長
第83回／AO VIVO(アォ・ヴィーヴォ):竹内 浩一・中川 雅紀・山極'おーじ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛
第84回／シュタルフ 悠紀 リヒャルトさん　AC長野パルセイロ監督
第85回／若林 健太さん　衆議院議員
第86回／越原 照夫さん　株式会社まちづくり長野 常務取締役
第87回／FT Naked(エフティー・ネイキッド):林 保之・林 栄一・寺沢 雄一郎・中田 寿寛・長谷川 裕晃
第88回／荒井 雄彦さん　シソーラス株式会社 代表取締役
第89回／鈴木 隆治さん　NUPRI 事務局次長/鈴木土地株式会社 代表取締役社長
　　鷲澤 幸一さん　NUPRI 副理事長/炭平コーポレーション株式会社 代表取締役社長
第90回／松坂 彰久さん　善光寺事務局勤務
第91回／小谷野 俊介さん　株式会社テレビ信州 代表取締役社長

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人
長野都市経営研究所
〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911　FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

wai-gaya salon news-letter

わいがやサロン通信

Vol. 92
2023.12

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute
NPO法人 長野都市経営研究所

第92回　わいがやサロン

■座長：岩野 彰／会場：NUPRI事務所
令和5年12月8日（金）18:30～20:30

出演：**FT Naked**
エフティー・ネイキッド

Christmas Jazz Night

FT Naked

♪林　保之（sax）　ジャズサックスを中村誠一氏、菊池康正氏に師事。県内東北信を中心に、ライブハウス、ホテル演奏など出演多数／自由人

♪林　栄一（tb、vo）　トロンボーンの他、ビッグバンドなどの編曲も数多く手がける。ボーカリストとしても活躍／長野水産物協同組合エグゼクティブ・パート職員

♪寺沢雄一郎（g）　ジャズギターを角田忠雄氏に師事。日本のトップ・プロミュージシャンとの共演多数／県内企業勤務

♪中田寿寛（b）　ビッグバンドを中心とするジャズ演奏の他、マンドリン合奏団でも演奏／中田事務所

♪長谷川裕晃（ds）　コンボ、ビッグバンドなどジャズを中心に活動中／長野市芸術館勤務

＊ネイキッドの意は裸、むき出しあるいは不完全

2023年最後の「わいがやサロン」はジャズライブ――AIだの何だのデジタル化に否応なく取り込まれる時代だからこそ、からだはナマの音楽を求めている？　ライブ会場となった事務所に会員たちが駆けつけました。

On Green Dolphin Street/Cool Struttin

サックスの林保之さんが〈ワンツー、ワンツー…〉とカウントをとってミュージック、スタート！　サックス、トロンボーン、やがてギター、ベース、ドラムスも加わりオール・プレイに。炸裂する音、空気を通して伝わる微振動…事務所は一気にライブハウスと化しました。

１曲終わってベース・中田さんがMC「エフティ ネイキッドが揃って演奏するのは去年のNUPRIクリスマス・ライブ以来です。お聴きいただいた曲は前回もやったジャズ・スタンダード定番中の定番〝オン グリーン ドルフィン ストリート〟でした。1950年代にトランペットの帝王マイルス・デイヴィスがクインテットで演奏後、さまざまなジャズメンによる名盤が生まれています。トランペットとテナー・サックスとの組み合わせは多いですが、今夜はサックスとトロンボーンで。珍しいはずです」+林（栄）さん「クルセイダーズくらいしかいないね」。♪♪♪

MC「2曲目は〝クール ストラッティン〟。1958年にジャズ・ピアニストのソニー・クラークが出したアルバムは本家アメリカではあまり受けなかったんですが日本のジャズファンの間では大ヒットした不思議な曲です」。♪♪♪先行はトロンボーン。他の楽器が加わってテーマのメロディが積み重ねられていくにつれ、知ってる知ってる！と笑顔がこぼれる人、からだでリズムをとる人…。

＊On Green Dolphin Street（1947）：映画『大地は怒る（Green Dolphin Street）』の挿入曲（ブロニスラウ・ケイパー作曲）。元々は歌詞があったがマイルス・デイヴィスがインストゥルメンタルで録音後、ジャズ・スタンダードとして定着。

＊Cool Struttin'：ソニー・クラーク（1942～63）。ジャズ喫茶全盛期、最もリクエストの多いアルバムだったそう。struttin'は気取って歩く。coolが格好イイを意味するのは今では日本でも一般化。

Unit Seven/Old Folks

MC「ベーシストのサム・ジョーンズが作った〝ユニット セブン〟をやります。ベース、ピアノ、アルトサックスの原曲をFT Naked用に編曲しています」。♪♪♪ドラムスのカチ、カチと、スティックを打面に付けながら叩く奏法が印象に残りました。終了後、長谷川さんに尋ねると「クローズド リム ショット」とのこと。こんな間近に奏者の手元・指先を見れる会場は滅多にありません。

続いては古き良き時代を歌った〝オールド フォークス〟。ギターソロから始まる美しく、優しいメロディのバラードでした。その後メンバー紹介。

＊Unit Seven（1962）：サム・ジョーンズは非常に強いタッチでベースを弾き、ハード・バップを身上とするバンドには無くてはならない存在だった。

＊Old Folks（1938）：作曲はバンドリーダー兼ピアニストで活躍したウィラード・ロビソン（〝ベッドで煙草を吸わないで〟も同人）。詞は南北戦争を知る老人たちを慈愛込めて語る内容。チャーリー・パーカーが50年代初頭に録音したことでスタンダードとして定着。

The Christmas Song/Unforgetable

これよりはボーカル入りです。「〝ザ クリスマス ソング〟はナット・キング・コールによる歌唱が中でも有名。元々ジャズ・ピアニストの彼はピアノを弾きながら歌ったわけですが、林さんがトロンボーンを吹きながらは無理なのでボーカルに専念してもらいます（会場：笑）」。♪♪♪

「続く〝アンフォゲッタブル〟もナットのヒット・ラブソング。彼が亡くなって40年後、娘のナタリー・コールが発表した父のカバー曲アルバムは全米ポップチャートで5週1位というジャズ作品としては異例の大ヒットを記録。同曲のシングルは、亡き父が歌った音源とのオーバーダブによる共演が大きな話題を呼びました」。♪♪♪

＊The Christmas Song（1944）：ミュージシャンで作曲家・歌手のメル・トーメがボブ・ウェルズと一緒に真夏に創作。

＊Unforgetable（1951）：アーヴィング・ゴードン作詞・作曲。ナタリーのアルバム・シングルは共にグラミー賞受賞。

La La Means I Love You

「次はジャズではなく1970年代を代表するソウルミュージック〝ララ ミーンズ アイ ラブ ユウ〟をトリオ演奏（ギター・ベース・ドラムス）で。日本では山下達郎もリリースしているので皆さん聴いたことがあると思います」、♪♪♪よく流れましたよね。

＊La La Means I Love You（1968）：初期フィラデルフィア・ソウルを代表するグループ、デルフォニックスの1作目(メンバーのウイリアム・ハート作)にしてスウィート・ソウルの大定番。

Recorda Me

「5人に戻って、テナー・サックス奏者ジョー・ヘンダーソンが作ったジャム・セッションの名曲〝リコーダ ミー〟をお聴きください」のMCが終わるや軽快なイントロ→甘くラテン調？のテーマ→ベースはじめ各ソロのパフォーマンスが繋がりつつ支え合いリフレイン→ダイナミックにラストテーマが奏でられエンディング。

＊Recorda me（1963）：Joe Henderson（1937～2001）が15歳の時に作曲。デビューアルバムにして名作とされる「Page One」に収録。チック・コリア（ピアノ）、マッコイ・タイナー（同）等、多くのジャズメンに愛されている。

Mack The Knife(Moritat)/ [アンコール]Take the A Train

「次の曲で最後になります」のMCで堰を切ったように始まったのは耳に馴染んだメロディ、〝マック ザ ナイフ〟。♪♪♪

プレーヤーとオーディエンスが一体となった楽しいひとときは驚くほど早く終わってしまい、「アンコール！」の声と拍手に応えての〆はスウィング・ジャズの代表曲〝A列車で行こう〟♪♪♪（拍手喝采）

＊Mack the Knife（1928）：舞台『三文オペラ（原題Die Moritat von Mackie Messer）』の劇中歌。ルイ・アームストロングおよびボビー・ダーリンが1950年代にシングルを発表し大ヒット。

＊Take the A Train（1939）：デューク・エリントン率いる楽団のテーマ曲。「（ジャズを楽しめる）ハーレムに行くならA系統にお乗りなさい」の意味が込められている。

わいがやタイムに奏者から「残響がライブハウスに劣らず良い」とお墨付き（!?）をいただきました。
今回ご多忙だった方々も次回ライブのご来場をお待ちしています。